

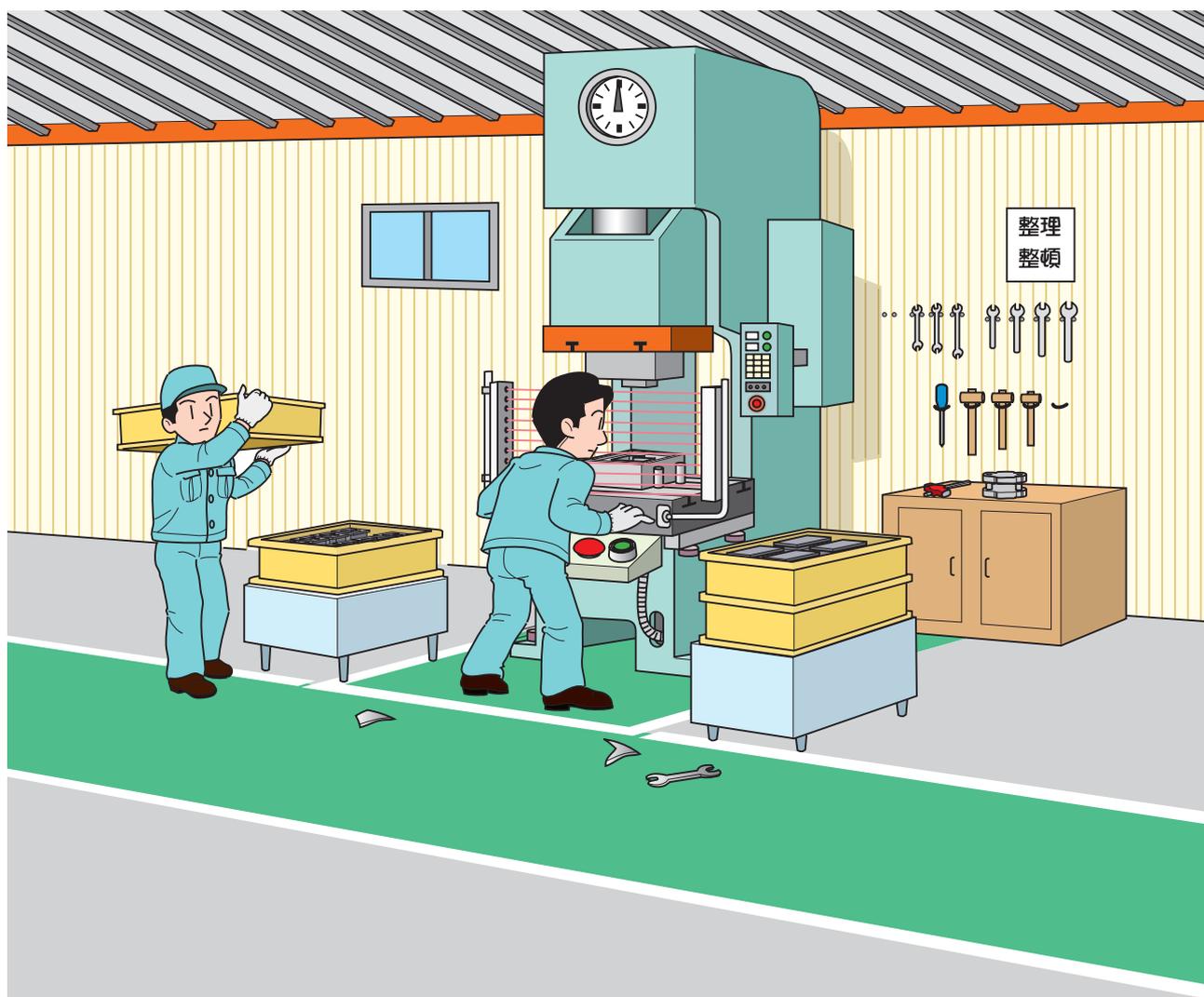
5 リスクアセスメント実施例

リスクアセスメントを初めて事業場で導入するにあたり、各職場に潜んでいる危険性又は有害性をいかに有効に特定することができるかが重要です。そのためには日頃から、リスクアセスメントに参加する者すなわち全従業員の危険性又は有害性に対する感受性を高め、今まで見逃されがちだった潜在的な危険性又は有害性を発見する能力を高めることが望まれます。

ここでは、作業の一場面をイメージして「危険性又は有害性の特定」から、「リスクの見積り」、「リスク低減措置の検討」などリスクアセスメント実施一覧表を作成した実施例を示していますが、各事業場では同様の演習を行うことにより、改めてリスクアセスメントの実施手順を理解するとともに、危険性又は有害性に対する考え方について参加者の相互理解を深めることが期待できます。

ある事業場におけるプレス作業

作業者は右側から材料を取り出し金型に合わせて加工後、左側のケースに並べます。ケースが満たされると他の作業者が梱包場所へ運びます。製品は4から5日で変ります。プレス機械は、両手操作式で光線式安全装置が備えられています。



リスクアセスメント実施一覽表 (実施記載例)

対象職場 *1 (プレス工程等を記入)	1, 2, 3の実施担当者の実施日	4, 5, 6の実施担当者の実施日	7, 8の実施担当者の実施日
第1製造 (プレス工程)	〇〇〇〇 H18年〇月1日	△△△△ H18年△月1日	◇◇◇◇ H18年◇月1日

社長	安全衛生 委員長	製造部長	第一課長
印	印	印	印

1. 作業名 (機械・設備)	2. 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (災害に至る過程として「～なので、～して」 + 「～になる」と記述します)	3. 既存の災害防止 対策	4. リスクの評価*2			5. リスク低減対策案	6. 対策案想定 リスク*2			7. 対応措置		8. 備考	
			重篤度	可能性	頻度		リスク	重篤度	可能性	頻度	リスク		対策 実施日
プレス作業 (プレス 1号機)	①-1 両手押しボタンと光線式安全装置を設置しているが、補助作業者が不良品を取り除こうとして、側面又は後面から手を入れたとき、手を金型に挟まれる。	両手押しボタンと光線式安全装置	10	2	2	IV (14)	IV (18)	1	1	1	H18 O/25	総合的な対応措置として、金型の改善によりノーハンドインダイヤを検討する。	優先度は大。側面又は後面から手が入る危険性に対するリスクについてのみ検討したもの。(安全装置についてはD>16(Te+Ts)の条件が必要であるが別項で取り上げる)
同上	①-2 両手押しボタンを操作しているが、不良品を取り除こうとしたとき、光線式安全装置が故障で機能せず、手を金型に挟まれる。	両手押しボタンと光線式安全装置	10	6	2	IV (16)	IV (13)	10	2	1	H18 O/1	光線式安全装置の故障時には、プレス機は作動しないように改善する。	優先度は大。光線式安全装置の故障による危険性に対するリスクについて検討したもの。安全装置はD>16(Te+Ts)の条件を満たしているが、故障時のリスクは大きく残り、本質的にシステムを改善することを検討する。
同上	② プレス作業者は保護帽(ヘルメット)をかぶっていないため、スライドの前面に接触し頭部に激突する。	プレス作業者は保護着用を義務付けている。	10	2	4	IV (9)	IV (13)	10	1	2	H18 X/1	毎日、作業前及び作業中に監督者に悉くさせ作業者に遵守させる。	優先度は大。ノーハンドインダイヤを推進することによりレベルIに近づける。
同上	③ プレス作業者の足元にスクラップが散乱しており、つまずいて転倒する。	作業の周辺は整理整頓させている。	3	2	4	III (9)	II (7)	3	2	2	H18 X/1	同上	優先度は中。スクラップが飛散しないように金型を改造し残存リスクを減少させる。
同上	④ プレス機械の横にスクラップと工具が散乱しており、荷物を運んでいる作業者がつまずいて、運んでいるプレス加工品が飛散して他の作業者に激突する。	作業の周辺は整理整頓させている。	3	4	2	III (9)	II (6)	3	2	1	H18 X/1	工具は目で見てわかるような管理方法に改善する。	優先度は中。整理整頓は安全対策の基本と位置づけ全社的に5S運動を展開する。
同上	⑤ プレス作業者の後ろの作業者が肩に荷物を担いで運んでいるため、不安定になり転倒して負傷する。	運搬については具体的な対策はない	3	2	4	III (9)	II (6)	3	1	2	H18 Y/1		優先度は中。荷の持ち上げ作業手順書を作成し監督者は作業者に遵守させる
			(注) 作業方法を変更したことによりあらたなリスクがないか検討する。(⑥へ)										
	⑥ プレス作業者の直ぐ後ろを運搬車が通るので、作業者に激突し負傷する。 (⑤のリスク低減対策案の検討の中で新たに発生するリスク)	具体的な対策はない	3	2	4	III (9)	I (5)	3	1	1	H18 Z/30		優先度は中。運搬車利用の作業手順書を作成し監督者は作業者に遵守させる。

*1: この一覽表は、職場の工程ごとに作成します。各工程の全ての作業(作業手順)を取り上げ危険性又は有害性の洗い出しから進めます。
 *2: 重篤度、可能性、および頻度は、それぞれ評価基準の例の発生のおそれのある負傷又は疾病の重篤度、発生可能性、および危険性又は有害性に近づく頻度をいいます。レベル欄では評価点数(リスクポイント)を()内に記入します。